



念ずれば 花開く

神郷北小学校
5・6年学級通信
令和7年 6月11日
第6号

行ってきました 森林学習

5月26日（月）総合的な学習の時間で、「私たちの身の回りにある木はどこへ運ばれ、どのように使われているのか」津山総合木材市場、新見バイオマスエナジー、三室の開伐場へ学習に行きました。

まず、木材市場では、実際に売られている木材を見学しました。見学の3日前に10周年記念の競りが行われたばかりで、「今日は木材が少ないかもしれない」とのことでしたが、それを感じさせないほど多くの木材が並んでおり、子どもたちは驚いていました。

木には売値や太さ、売り主や買い主のアルファベットなどがチョークで記されており、中には1本10万円を超える高価な木もありました。トラックで搬入された木を重機で降ろす様子。逆に搬出される木をフォークリフトに載せて積み込む様子など、流通の仕組みについても学ぶことができました。



次に訪れた新見バイオマスエナジーでは、使われなくなった木材がどのようにチップに加工され、発電に利用されているのかを学びました。スライドや発電の模型を使った分かりやすい説明のあと、実際の発電所内も見学させていただきました。チップの山がいくつも積みれ、作りたてのチップは温かったです。できたチップは炉の中で、約400℃という高温で燃やされます。大量の水を温め、蒸気でタービンを回して電気がつくられる様子は、子どもたちにとってとても印象的だったようです。チップを燃やした後にできる灰も肥料として、活用されていることも循環の一つだと分かりました。



午後からは、三室の山林へ行き、木材の伐採の様子を見た後、伐採の意義や森林の役割について多賀さんに教えてもらいました。そこでは、伐採用の大型機械や、木を決まった長さに切る機械が稼働しており、迫力ある作業の様子を間近で見ることができました。およそ 20 メートルにもなる大木が、機械の操作によって次々と切り倒され、倒れた木は器用に持ち上げられて同じ長さに切りそろえられていきました。初めて目にする作業に、子どもたちは目を輝かせながら見入っていました。



1 日を通して、新見市の林業に関わる多くの方々のお話を伺いながら、森林が「伐る・使う・育てる」を繰り返して循環していること、そしてその循環を守っていくことの大切さを学ぶことができました。今後は、今回の見学をもとに、子どもたちとともに学びをまとめていく予定です。

保護者の皆様には、急なお知らせとなりましたが、見学に必要な準備にご協力いただき、ありがとうございました。

感想コーナー★

池田陽飛さん・・・バイオマス発電は、チップを燃やし、水を温め、水蒸気でタービンを回して発電するということを知りました。想像以上に大きなタービンの迫力に驚きました。

山上莉子さん・・・切った木は、発電や家の柱などに使われ、その後の山には木が植えられるという、森林の循環があることを知りました。

竹田悠希さん・・・1 日 90 万トンのチップが 400℃という高温で燃やされていることを学びました。バイオマス発電は地球に優しいということも学びました。

信谷綾乃さん・・・市場で聞いた話の中に、発電所の話が出てきたり、発電所の話の中で、新見市の山の話が出てきたりして、林業はいろいろな職種と関係があることを学びました。

木村あかりさん・・・木の大きさだけでなく、小さくても必要とされる木なら高く売れることを初めて知り、予想外でした。

眞壁晃生さん・・・たった 2 人で広い森を伐採していたことに驚きました。重機を使って効率よく作業をしていく必要があることを学びました。